

江尾の

おしやもっさん

平成十一年七月五日号

江尾地区に「おしやもっさん」と呼ばれる小さなほこらがあります。これは昔、水田の広さをはかる道具を祭つたものと言われています。今回は、この「おしやもっさん」についてご紹介します。

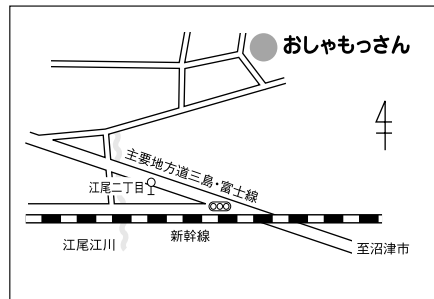
「おしやもっさん」とは、おしやもちさんがなまったもので、その語源は「お尺持ち」と言われています。「お尺」とは、昔、年貢を取り立てるために土地を検地（測量）したときに使った間竿や間縄のことで、このお尺を

持っていた人をお尺持ちと呼んでいたと思われま

す。江戸時代の検地は、それは厳しいものでした。間竿や間縄を使って水田の広さをはかることを竿入れ、縄入れと言いました。検地のための役人

が村の役人を使って、厳重な検地を行いました。少しでも調査を受けずに隠している水田があると、重い罰を受けました。また、はかり間違いがあつたりすると、首を切られたりするともありました。

それほど検地が厳しかったので、村では「お尺」をととても大切にし、いつしか祭るようになったと思われま



昔はこうしたほこらが村それぞれにあったようですが、今ではほとんどなくなりました。しかし、江尾のおしゃもっさんは今もなお大切に祭られています。そのほこらの下からはきれいな水がこんこんとわき出ていて、ハヤなどの小魚が泳ぎ、近くに住む人々から親しまれています。



▶「おしゃもっさん」を祭るほこら

おしゃもっさんを今も大切に祭る

栗田郁男さん（江尾）

「おしゃもっさん」は代々うちで祭っています。祭ると家が栄えると我が家では言い伝えられています。敷地の入り口にあるので家の玄関として祭っているんですよ。

ほこらの下からは今もきれいな水がわき出ています。二十年ぐらい前まではみんなこのわき水を家に引いて生活していました。

今のほこらは、妙蓮寺さんにおはらいをしてもらって平成八年に建てかえたものです。毎朝、ろうそくに火をともし、わき水をお供えしています。私の習慣のようなのですよ。また、毎月一日と十五日に塩と米とシバ^{*}を供えています。妻もいつも掃除をしてくれます。子どもや孫にもずつと引き継いで「おしゃもっさん」を祭ってほしいですね。

※シバ：雑木の小枝